

令和元年度第2回幡多地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和2年2月14日（金）14：30～17：00

場所：土佐清水市立中央公民館 3階 多目的ホール

出席：委員27名中、22名が出席（代理出席5名含む）

議事：（1）第4期高知県産業振興計画の全体像（案）等について

（2）第4期高知県産業振興計画における幡多地域アクションプラン（案）について

（3）産業成長戦略について

1）移住促進の取り組みについて

2）観光振興の取り組みについて

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）第4期高知県産業振興計画の全体像（案）等について

意見交換等、特になし。

（2）第4期高知県産業振興計画における幡多地域アクションプラン（案）について

（No.17 宗田節の一般向け削り加工商品の販売促進と体験観光の強化）

（武政委員）

地域にはまだまだ元気な高齢者が多くいるので、活躍できる場を作って欲しい。

（No.6 宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト）

（中平委員代理）

宿毛市観光協会として、ふるさと納税の返礼品としての活用やECサイトでの販売促進、SNSやHPでの情報発信などをしてきたい。

（No.4 三原村ユズ産地化計画の推進）

（田野委員）

作付面積54haという目標を達成した。ユズ産地化計画については三原村創生推進本部会の中でも話があった。農家所得の向上を目指し、地域全体で取り組む。

（No.39 大月町の地域資源を活用した観光振興）

（安田委員）

大月町の柏島はSNSでの広報が成功し多くの来客につながった。昨年整備した柏島観光情報発信センターで案内を行っている他、旅行情報誌『るるぶ』の表紙にも採用され、来訪者増が期待できる。今後も地域アクションプランを推進して幡多に人を呼び込んでいく。

(No.26 道の駅「ふれあいパーク・大月」を基盤とした産業振興と賑わいの創出)

(岡田委員)

道の駅を産業及び観光の拠点としてリニューアル整備していく。また、大月町の交通の整備や足摺海洋館のリニューアル等により増加が見込まれる土佐清水市への来訪者を大月町へも呼び込んで行きたい。

(No.37 土佐清水まるごと戦略観光の展開)

(土居委員代理)

唐人駄場を活用した新たな体験メニューや、足摺岬クルーズと足摺岬釣鯿組合が連携した体験メニューを開発し、観光振興に取り組んでいる。

(No.36 竜串地域の観光再生構想の推進)

(泥谷委員)

平成31年4月にスノーピーク土佐清水キャンプフィールドがオープンし、令和2年3月にはジオパークの拠点となる竜串ビジターセンターがオープン予定。また、7月には新足摺海洋館「SATOUMI」がオープンすることで、一層の交流人口の拡大が期待できる。この交流人口を幡多全体で回せる仕組みを広域で作って行きたい。

(No.8 宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売)

(中平(富)委員)

水産物をいかに加工し高付加価値化するかが重要。水産はしっかりやっていけば地域の収益につながる。

(No.6 宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト)

(中平(富)委員)

後継者不足のため農業従事者を育てて行きたい。U・Iターン者や新規就農者にとって農業が仕事として見えるよう、研修制度等を充実させ、土地も得て農家として自立して行ってもらう仕組みをつくっていく。

(旧No.12 四万十川の環境と資源を活用した産業振興事業)

(中平座長)

スジアオノリの漁獲量は低下している。3年間国の事業を入れて浮かし網養殖を推進してきたが1年目はカモ、2・3年目はアオミドロの影響でうまくいかなかった。温暖化の影響が大きいと考えられる。

(堀岡委員)

アオサノリは一定漁獲量があるため、これを主にやっていく。観光については四万十市産業振興計画フォローアップ委員会で提案する。

(山本委員)

国と四万十市で前向きに始めたスジアオノリの事業だが、難しいと実感した。川の観光については、体験メニューづくりを試行錯誤しながらやっており、ふるさと納税返礼品として漁業体験を取り扱うなどしているが、PRが不足している。今後、川を活用した観光振興をより図っていく。

(No.34 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化)

(大西委員)

スポーツツーリズムで全国に勝つにはとがった取り組みが必要。教育における競技力の向上に力を入れる、スポーツを産業として捉えた視点からも教育に組み込むことがスポーツツーリズムの振興につながると思う。また、高知ユナイテッドSCがJFLに昇格し、公式戦が宿毛市で開催されるため、県や幡多の6市町村で盛り上げていく必要がある。

※委員からの意見に対して一括して回答

(松村地域産業振興監)

高齢者の活躍できる場づくりについては、柔軟な採用方法をすることで、高齢者だからこそ丁寧な仕事ができるということがあると思う。平成31年4月に高知県働き方改革推進支援センターの幡多出張所を開設し、この1年間の相談内容や成果等をこれから評価していくところ。事業者への説明や企業誘致にも取り組んでいく。

観光分野については、幡多全域でスポーツツーリズムを盛り上げ、強みを生かして推進していく。幡多地域でも体育大学の受け入れなどに既に取り組んでいる市町村もあるため、そういった実績を徐々に積み重ねていって欲しい。レンタサイクル事業は、幡多地域全体で競技力向上にもつながる形で連携して取り組んでいきたい。

水産分野については、補助金やアドバイザー、セミナー等を活用した伴走支援を通じて、売上が伸びた結果、自立することとなった沖の島水産のような事例を作っていきたい。特に海外輸出の振興は、次年度の県の重点施策となるため、積極的に支援していく。

農業分野については、U・Iターンや移住者の就農先として、黒潮町がモデル的な位置づけとなっている。成果を共有し、勉強する機会を充実させることで、後継者の確保にもつながると思う。

四万十川流域に関しては、環境保全とともに、体験型観光を更に発展させていく必要がある。様々な体験や2次交通を組み合わせるなどして、広域で周遊してもらう仕組みを作りたい。

(3) 産業成長戦略について

(移住促進の取り組みについて)

意見交換等、特になし。

(観光振興の取り組みについて)

(大西委員)

デジタルプロモーションをする際は、バナーの内容も大事になってくる。具体的に、地元自治体が積極的に関わるタイミングはあるか。

(観光政策課 藤田チーフ)

デジタルプロモーションによって得られたデータ等を分析していく中で、市町村に意見を伺う機会などは出てくると思う。

(地域観光課 和田課長補佐)

事業の仕様等を固めるにあたって改めて検討し、回答させていただく。

(泥谷委員)

新足摺海洋館「SATOUMI」のオープンによる経済波及効果を期待しているが、県のPRが遅いのではないかと。また、インバウンドを含めて新型コロナウイルスが及ぼす春の観光シーズンへの影響を心配している。旅行者へのインセンティブ（動機付け）も含めた早急な対応を求める。

(程岡委員)

テレビで積極的に情報発信するなどして欲しい。

(地域観光課 和田課長補佐)

旅行会社向け商談会や閉館イベントにおけるPR、ビジターセンターのオープンと合わせて愛媛県を中心にテレビによる情報発信等を予定している。

新型コロナウイルスについては、県も対策本部を立ち上げたところであり、丁寧に対応する。

(中脇委員)

インバウンドでは目につく観光名所よりも田舎を体験したい外国人旅行者が多いと聞く。「グリーンツーリズム」という言葉は最近聞かなくなっており、改めて宣伝等が必要かと思うが県の所管はどこか。

(地域観光課 和田課長補佐)

地域観光課が所管しており、「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」の中で、グリーンツーリズムと同様に滞在型観光を進めている。

(以上)